

水と緑の森づくり事業における 10 年間の森林整備の効果について

とやまの森を守り育てるため、富山県では平成 19 年度から「水と緑の森づくり税」を導入し、多様な森づくりの推進を図ってきた。今回、多様な森づくりの推進で実施した、森林整備の効果について県民にわかりやすく示すため、できるかぎり定量的に評価を行うこととした。

なお、森林機能の向上効果については、数量的に評価が可能な土砂流出防止機能、水源かん養機能、二酸化炭素吸収について評価を行う。

■■■森林整備の実施効果を試算した結果■■■

森林整備事業(里山林整備 2,628ha、混交林整備 1,290ha、立山 森の輝きの植栽 42h)を 10 年間で 3,960ha 実施したことにより、土砂流出防止や水源かん養、二酸化炭素吸収など、手入れ不足や荒廃森林などを整備することにより、森林の公益的機能の向上が期待され、実施効果を試算した結果、**約 23 億円**と推定されます。

なお、森林整備面積(3,960ha)における公益的機能向上を含めた森林の公益的機能評価額(年間)は**約 155 億円**となります。

【参考】事業実施の効果(H19~28 年度 10 年間)

◆整備した森林(3,960ha)の効果(試算)

①土砂流出防止機能の向上……約 2 億円の効果※1

⇒10 年間で 32 千 m^3 の土砂流出を抑止

(10t ダンプ(6.2 m^3)で 5,140 台分に相当)

※1) ダムによる土砂を保全するコストで代替した場合

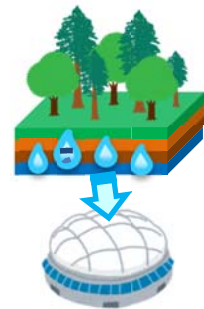


②水源かん養機能の向上……約 9 億円の効果※2

⇒10 年間で 447 万 m^3 の貯留効果

(東京ドーム(容積約 124 万 m^3)で 3.6 個分に相当)

※2) ダムによる洪水調整や水道代金等コストで代替した場合



③環境保全機能の向上……約 12 億円の効果※3

⇒10 年間で 30,938t- CO_2 の二酸化炭素吸収効果

(自家用車 約 13,500 台が 1 年間に排出する CO_2 の量に相当)

※排出量取引制度及び

生物多様性(森林の適切な管理)で代替した場合



※整備した森林の効果は「林野公共事業における事前評価マニュアル(林野庁)」を用いて算出